

【施策番号 Ⅲ-1-15】

分野	戦略	誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造
品格あるくまもと	重点的に取り組む施策	くまもと文化の創造と継承、発信

1 施策の概要 (PLAN)

(1)背景	(4)取組みの概要
<p>●熊本は九州の中央に位置するという地理的優位性と合わせ、自然、歴史、文化、美しい景観など誇れる資源が数多くある。</p>	<p><b>【①鞠智城の国営公園化等】</b>                  ・歴史公園として整備し、鞠智城の特別史跡指定及び国営公園化を推進                  ・全国の古代山城や歴史的遺産等とのネットワークづくり、PR活動の推進</p>
(2)めざす姿	<p><b>【②世界文化遺産の登録、文化財の登録】</b>                  ・「阿蘇」、「九州・山口の近代化産業遺産群」(旧万田坑、三角西港)、「天草のキリスト教関連遺産」の世界文化遺産登録を推進                  ・広域にわたり分布する文化財の価値付けや「歴史回廊くまもと」の素材ともなる新たな文化財の指定等を推進</p>
(3)解決すべき課題	<p><b>【③芸術文化の振興】</b>                  ・永青文庫等熊本藩主ゆかりの宝物を調査、修復し、展示に活用                  ・県芸術文化祭の実施や県立劇場を拠点とした取組みによる芸術、文化の振興                  ・フィールドミュージアムや企画展等の実施、高齢者を対象とした地域リーダーの育成等、県民参加の博物館活動の推進</p>
<p>●本県の優れた歴史や文化などが再認識され、「誇りに満ちた魅力あふれる地域社会の創造」をめざす。</p>	<p>●特別史跡指定及び国営公園化をめざす鞠智城や世界文化遺産をめざす阿蘇、天草のほか近代化産業遺産、熊本城や永青文庫、国宝の青井阿蘇神社など、地域の宝をいかに磨き活かしていくかが課題。</p>

2 施策の主な構成事業 (DO)

取組みの概要	担当課	平成21年度事業/決算(千円)		平成22年度事業/当初予算(千円)	
鞠智城の国営公園化等	教育庁文化課	鞠智城整備事業	27,867	鞠智城整備事業	66,571
	都市計画課	鞠智城国営公園化推進事業	0	鞠智城地域活性化策PR事業	17,665
		鞠智城公園計画調査事業	19,247	鞠智城公園計画調査事業	30,000
世界文化遺産の登録、文化財の指定	教育庁文化課	世界文化遺産登録推進事業	18,572	世界文化遺産登録推進事業	29,640
		—	—	文化財広域連携推進事業	2,460
芸術文化の振興	教育庁文化課	永青文庫推進事業	61,717	永青文庫推進事業	91,814
	文化企画課	県立劇場管理運営事業	378,564	県立劇場管理運営事業	378,735
		熊本県芸術文化祭推進事業	11,492	熊本県芸術文化祭推進事業	11,100
		博物館関係資料活用・学習支援事業	12,527	博物館関係資料活用・学習支援事業	14,031
		—	—	元気な高齢者によるくまもと文化の継承と発信	1,727

3 施策の評価 (CHECK)

(1)指標の推移						
指標(単位)	策定時	H21	H22	H23	目標値	目標値の説明
1 世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数(カ所)	4 (H20) 〈達成度〉	4 (H21) 40.0%	4 (H22) 40.0%		10	4年間で6カ所(米塚、中央火口丘、中通古墳群、豊後街道歴史の道、崎津の文化的景観、大江の文化的景観)の計10カ所
2 文化施設の利用者数(万人/年)	82.3 (H19) 〈達成度〉	108.7 (H20) 126.1%	86.4 (H21) 100.2%		86.2	各施設(美術館、古墳館、鞠智城、県立劇場)が掲げた目標利用者数を合算

(2)指標の分析						
・世界文化遺産登録に関連する資産の国指定件数は変わらないが、指定に向けた申請作業を着実に実施している。 ・文化施設の利用者数は、平成20年度比で大幅減となったが目標値は達成している。利用者数減の要因としては、県立美術館で入場者数の特に多い展示がなかったことや新型インフルエンザの影響等が考えられる。						

(3)平成21年度取組みの主な成果						
<p><b>【①鞠智城の国営公園化等】</b>                  ・百済系菩薩立像の出土後のイベント、特別公開により認知度向上に努め、鞠智城跡に10万人以上の来場者があった。                  ・鞠智城イメージキャラクターを公募、決定。また、東京でのシンポジウムの開催や、特別史跡指定、国営公園化に向けたPR、要望活動を実施。                  ・基礎資料となる測量図面の作成や利用プログラムに必要な自然環境調査を実施し、公園の整備基本計画を検討した。</p> <p><b>【②世界文化遺産の登録、文化財の登録】</b>                  ・各資産の学術的な検討を行う専門家委員会を開催し、世界文化遺産登録に向け調査を実施。シンポジウム開催等により住民理解の浸透を図った。                  ・阿蘇においては、県と地元市町村で基本協定を締結。推進協議会を設置し、登録をめざした取組みの推進体制を強化。</p>						

(4)平成22年度取組み方針、取組み状況						
<p><b>【①鞠智城の国営公園化等】</b>                  ・発掘調査や公園整備を着実に実施しながら、歴史公園としての価値を高めるため、条里制水田や不動岩、菊池川流域などの周辺を取り込んだ「ゆるやかな公園」としての検討を進め、関係機関と連携した要望活動を実施する。                  ・平城遷都1300年祭への出展、東京シンポジウムの開催、世界大百済典への出展、烽火リレーの実施、九州国立博物館への出展等を行う。</p> <p><b>【②世界文化遺産の登録、文化財の登録】</b>                  ・3つの資産について文化財国指定のための学術調査や保存管理計画を策定する。                  ・球磨地域をモデル地域とした古社寺等建造物の保存や活用について検討するほか、「歴史回廊くまもと」の素材となる文化財の指定を積極的に進めていく。</p> <p><b>【③芸術文化の振興】</b>                  ・永青文庫について、九州新幹線全線開業の特別展示やワークショップ等を開催する。                  ・県立劇場を拠点にくまもと文化の創造と発信に係る事業に取り組むとともに、県内各地でのフィールドミュージアム開催、他の博物館と連携した企画展の開催等により県民参加の博物館活動を推進する。</p>						

(5)施策を推進する上での課題						
・鞠智城の国営公園化について、関係機関と連携した要望活動とともに、歴史的価値を広く周知する必要がある。 ・世界文化遺産登録について、学術的調査等膨大な事務量に対し、長期にわたる取り組みや自治体間の連携が必要。 ・九州新幹線全線開業に合わせ、より多くの来訪者を呼び込むため、永青文庫を県外に向け広く周知する必要がある。						

4 今後の方向性 (ACTION)

次年度に向けた施策展開の方向性						
・平成23年度末までに鞠智城保存整備基本計画の次期計画を策定し、調査研究及び保存整備方針を定める。 ・世界文化遺産登録について、推進協議会等による関係者の意思統一を図り、登録に向けた作業を着実に推進する。 ・「歴史回廊くまもと」の素材となる文化財の国指定・登録を推進する。 ・永青文庫について、魅力ある展示会やイベントの開催、県内外に向けた広報活動を展開する。 ・県芸術文化祭への県民の参加促進、県立劇場を中心とした事業展開により、くまもと文化を担う人材を育成するとともに、豊かな自然と歴史に育まれたくまもと文化の県内外への積極的な情報発信を行う。						